



害虫被害に御注意下さい！

近年、県南部地域において、イヌマキ等（イヌマキ、ナギ、ラカンマキ）の害虫である「キオビエダシャク」が発生しております。

被害の拡大が懸念されますので、ご自宅の庭にイヌマキ等がある方は十分注意してください。生態や対処法等については、以下のとおりです。

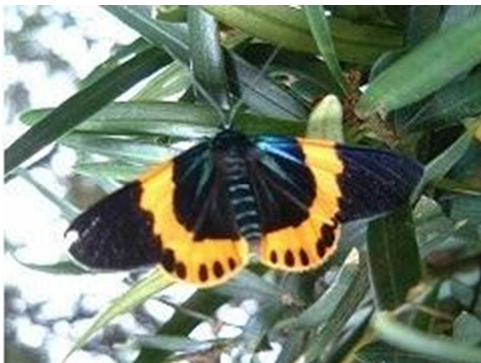


キオビエダシャクとはどんな虫？

成虫は、全体的に濃い紺色で、羽に黄色の帯がある美しい蛾（体長2cm程度、開張5cm程度）で、昼間飛び回ります。幼虫は5cm程度のシャクトリムシで、頭、尻及び側面がオレンジ色で、他の部分は灰色と黒色のまだら模様をしています。

幼虫は振動等に敏感なため、木を揺ると幼虫が糸を吐いて垂れ下がってきます。

幼虫のみが、マキ科のイヌマキとラカンマキ、ナギの葉を食害します。全葉食害を繰り返すと樹木が枯死する場合があります。



キオビエダシャク 成虫



キオビエダシャク 幼虫



発生したらどうやって防除するの？

①幼虫の発生が少ない場合

木を揺すって落ちた幼虫を捕殺します。また、木の根元の土中に茶褐色で紡錘型をしたサナギがいますので、掘り出して捕殺します。成虫は、捕虫網などで捕殺します。

②幼虫が大発生しているとき

薬剤散布が効果的です。薬剤がムラ無く葉の裏にもかかるように散布します（幼虫は葉の裏にもいます）。その後は定期的に観察して発生を確認したら散布を実施します。

ただし、薬剤散布は幼虫を殺すには効果がありますが、成虫、卵及びサナギには効果がありません。使用する薬剤の例は以下の通りです。

- ・「トレボン乳剤」 4, 000倍希釈液（水4リットルあたり薬剤1ミリリットルの割合で薄める）
- ・「スプラサイド乳剤」 1, 500倍希釈液（水1.5リットルあたり薬剤1ミリリットルの割合で薄める）
- ・「ロックオン」 1, 000倍希釈液（水1リットルあたり薬剤1ミリリットルの割合で薄める）

薬剤は、農薬取扱店（園芸専門店、ホームセンター等）で購入できます。なお、スプラサイド乳剤は劇物のため、購入の際、印鑑、身分証明が必要です。また、ロックオンは宮崎県森林組合連合会（0985-25-5133）で販売取扱いしています。

※当お知らせでは、比較的入手や使用が容易な薬品を紹介しています。

※使用に際しては必ず商品の説明をよく読んで、記載内容に従ってお使い下さい。



自分で薬剤散布する時に気をつけることは？

- ① 薬剤散布を行う前には、あらかじめ近所の方にも連絡し、また、周辺の農作物や通行人等に飛散しないように注意しましょう。
- ② 薬剤散布は、風がない時に、日中の暑い時間を避け、朝夕の涼しい時間帯に行いましょう。
- ③ 薬剤の使用にあたっては、ラベルの説明書を必ず読んで、記載内容に従って正しく使用しましょう。
- ④ 薬剤の希釈倍数を間違えないように注意しましょう。（決められた希釈倍数より濃い濃度での散布はできません。）
- ⑤ 薬剤散布を行う際は、薬剤が体に付着しないようにマスク、手袋、帽子、長靴、雨合羽などを着用しましょう。
- ⑥ 薬剤散布後はただちにうがい、洗眼を行い、また手足等を石鹸で洗い、衣類は下着まで着替えましょう。

※ 農薬については、国の登録を受けて製造販売されるもので、農薬取締法による製造・使用等の制限があります。また、使用時期・回数・分量なども規定どおり行うことが義務付けられています。違反した場合は、販売者・使用者とも罰せられます。



自分で薬剤散布をしたい場合は？

●薬剤散布機材の貸し出しについて

- ・2世帯以上の個人などで薬剤散布する場合、景観課では背負式噴霧器の貸し出しを行っています。
- ※薬剤や噴霧機の電池等は各自負担



自分で薬剤散布ができない場合は？

下記の各協会にご相談されると、薬剤散布のできる造園業者を紹介してもらえます。ただし、業者による薬剤散布は有料です。

（一社） 宮崎県造園緑地協会 宮崎支部

電話番号：0985-51-0208

（一社） 日本造園建設業協会 宮崎地区

電話番号：0985-51-3912

【お問い合わせ先】

宮崎市役所 景観課 花と緑の係 電話番号：0985-21-1817

キオビエダシャクに関するQ&A

Q：成虫がたくさん飛んでいるけど、いつどうやって防除すればいいの？

A：成虫を見かけると、すぐに防除したくなりますが、成虫は飛び回りますので防除は困難です。従って、幼虫の食害を確認してから防除するのが効果的かつ経済的です。イヌマキは強い木ですから、丸坊主に食害されない限り、ちょっとくらいかじられても枯死しません。木を揺ると糸を引いて垂れてきますので、そうした時期に防除します。防除は幼虫の発生が少数の時には捕殺し、大量に発生している時には薬剤を散布して下さい。

Q：キオビエダシャクの防除薬剤は？

A：トレボン乳剤とスプラサイド乳剤が農薬登録を受けており、かつ効果的です。倍率はトレボン乳剤（4000倍）、スプラサイド乳剤（1500～2000倍）が登録上の倍率です。ただし、これらの薬剤は残効期間が非常に短いため、薬剤のかかった幼虫だけ駆除できるものと考えてください。スミチオン・ディプテックスは効果が低いので、利用しない方がよいでしょう。

Q：キオビエダシャクは年に何回発生するの

A：年4～5回出現します。場所によってはズレが生じますが、およその目安は成虫の場合、4月、6月、8月、10～12月に出現します。幼虫は5～6月、7～8月、9～10月、11～12月に現れて食害します。

Q：キオビエダシャクは毒をもっていますか？触るとかぶれますか？

A：幼虫・成虫とも人体に影響のあるような毒は持っていません。素手で触っても大丈夫です。

備考：厳密に言うとイヌマキ由来のイヌマキラクトンやナギラクトンといった物質を体内に蓄えています。これらの物質により、鳥や昆虫のような天敵による捕食を避けています。

Q：今、成虫が飛んでいるけど、卵はどのくらいでふ化するの？その後は？

A：産卵はイヌマキの粗皮の隙間に行われ、約10日でふ化します。幼虫期間は1ヶ月ちょっとあり、この期間にイヌマキの葉を食害します。その後、幼虫は地面に浅く潜り、蛹になります(マユはつきりません)。蛹期間は15日程度です。成虫は2週間程度生存し、花蜜を吸いに各種の花を訪花します（1世代は約2ヶ月と考えてください）。

Q：防除したいけど、誰に頼んだらいいの？

A：お住まいの地域によって異なりますが、森林組合や造園業者、シルバー人材センターなどが、実施してくれる場合があります。また、各家庭の壁木程度で有れば霧吹きやお風呂の洗剤容器などを用いて散布することが可能です。

Q：イヌマキ以外には何も食べないのですか？

A：マキ科マキ属に属するイヌマキとナギしか食害しません。ナギは神社等にしか植栽されていないので、それほど見かける木ではありません。また、イヌマキの変種であるラカンマキは食害されます。